

平成31年度・令和元年度 佐賀県立伊万里高等学校 学校評価計画

<p>1 学校教育目標</p> <p>○自然を尊び郷土を愛し、人としての優しさに満ちた豊かな人間性と、自ら考え正しく行動する自主自律の精神を育てる。(自律)</p> <p>○個性と創造性を伸ばす個に応じた教育を進めるとともに、高い志を持ち、自ら判断し、自ら学ぶ力を育成する。(創造)</p> <p>○国際化、高度情報化の進む知識基盤型社会の中で、互いに認め合い親切に人に接し、世界の平和と社会や地域の発展に貢献する人材を育成する。(友愛)</p> <p>キャッチフレーズ「みんなが主役 ～明日の伊高はあなたがつくる～」 校訓「自律」「創造」「友愛」を教育の基本とし、志を高く掲げ、一人ひとりが主役であるということを実感し、勤勉な態度を養い、心身ともにたくましく、明朗で若さにあふれ、文化の創造や産業の振興など社会や地域に貢献していきたいという気概と情熱に満ちた生徒を育成する。</p>	<p>2 本年度の重点目標 ～地域の期待に応えることのできる普通科進学校を目指す～</p> <p>「地域に信頼され、期待に応える普通科進学校を目指す」</p> <p>(1)志を高める教育 有意義な高校生活を送り、将来社会に貢献できる生徒を育成するためには、生徒一人一人の志を高めることが重要である。教育活動全体をとおして志を涵養していく。</p> <p>(2)学力向上と進路保障 『伊高イノベーション・プロジェクト』 生徒一人ひとりに高い志を持たせ、その実現のための進路目標を明確させ、自ら努力する勤勉な生徒を育成する。</p> <p>(3)自己有用感の育成 自己有用感(自分の属する集団の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということ)を、自分で認識する)を育て、自他ともに認め合うことのできる親切的な生徒を育成する。</p> <p>(4)地元との連携の強化 地元の小中学校や関係諸機関との連携を深め、地域貢献につなげることで、伊万里高校の魅力を発信するとともに、地元から信頼され選ばれる学校づくりをする。</p>
--	--

3 目標・評価

① 志を高める教育				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒の割合を増やす。 ・夢や目標と学ぶことの意義を関連づけられる生徒の割合を増やす。 ・「佐賀や伊万里に愛着を持っている」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 ・多くの生徒が「地域とつながる学校魅力づくりプロジェクト」に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・全ての教科等においてキャリア教育の視点を取り入れた年間計画を策定する。 ・学力向上に努めることで、より高いレベルでの学びの体験を目指す。 ・伊万里の郷土学習資料や県教委作成の郷土学習資料「佐賀語り」「佐賀巡り」等を活用する。 ・「地域とつながる学校魅力づくりプロジェクト」を通じて、郷土をテーマにした調べ学習等を行い、校内発表会を実施する。 ・地域の教育資源や人材等を活用した体験活動や講演会を実施する。
② 学力向上と進路保障				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での主体的な活動 ・学習課題の効果的な活用 ・家庭学習時間の確保 	<p>(第1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一丸となったチャレンジャー」をキーワードとして、様々な分野に挑戦し、その中で適性を探るとともに、将来にわたる自分の専門分野の発見を促す。 <p>(第2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習習慣の確立と学力の着実な向上」を目指す。 <p>(第3学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志を高く持ち、第一希望への進路実現を目指す。 ・将来を見据えて視野を広く持ち、幅広く学ぶ姿勢を続ける。 ・受験を勝ち抜く学習・生活スタイルを確立する。 ・国公立大学合格者数昨年度プラス10名以上 ・九州大学合格5名以上 	<p>(第1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見聞きしたことを常に考え、行動に移して経験を多く積む。 ・高い目標を持たせることができるような具体的な提示を行う。 ・意思を貫く資質を育て、安易な妥協をしない環境・雰囲気醸成する。 ・清潔な服装・頭髪、元気のよい挨拶、丁寧な言葉遣い、遅刻・欠席をなくすなどの学校生活の基本を早期に確立する。 ・様々な分野にチャレンジし、経験を積んだ発信力・コミュニケーション力のある生徒を育成する。 <p>(第2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業と課題に真面目に取り組ませる。 ・家庭学習習慣と予習・復習のサイクルを確立させる。 ・志の高い進路意識の育成・確立。 ・進路目標にあった学習習慣の確立。 <p>(第3学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志望校の入試情報を詳しく調べ、まとめる。(1学期) ・放課後特課を新たな方法で実施し、進路希望に応じた効率的な指導を行う。(6月以降) ・入試小論文の対策を組織的・計画的に行う。(7月、9月～11月、1月～) ・「朝の活動」の10分間で、1日の学びに向かう雰囲気をつくとともに、教科の学力、読む力、表現する力を高める。 ・進路に関する連絡や相談は、できるだけ早く行うよう指導する。 ・「授業以外の学習時間300分以上」を常に意識させ、細切れの時間を活用させる。 ・ホームルームや授業の中で、協動的な学習生活の雰囲気づくりを意識させる。
	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の推進	・学習効果を高めるICT機器活用	・「授業でICT機器が有効に活用されている」と回答する生徒の割合を80%以上にする。	・教員一人ひとりが授業での効果的なICT機器の活用を考え、電子黒板や学習用PCを積極的に活用する。また、そのような活用の機会について各教科で研究し、教材等を共有する。
	○進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の明確化 ・希望進路の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する高い志を持ち、早い段階で自己の将来について真剣に考え目標を明確にし、努力させる。 ・個々の希望進路の実現に向けた指導を行い、地域に信頼される進路実績を上げる。 ・センター試験受験者を学年の95%以上とする。 ・国公立大学合格80名以上、難関大学、難関学部(医・薬)10名以上の合格を目指す。 ・適切な情報提供や講演等を実施し進路意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会やオープンキャンパスを通じ進路意識を高めるとともに、県の合同学習会への積極的な参加を呼びかけ、高い進路目標を持たせる。 ・進路希望調査(各学年2回)と進路検討会(3年3回)、進路情報交換会(1・2年各1回)を実施し、生徒の進路希望と成績を把握し効果的な指導につなげる。 ・模擬試験は原則全員受験とし、進路希望に応じて難関大模試や看護模試や個別大模試を実施する。また、難関大講座・小論文講座の計画的な実施や就職希望者への個別対応などきめ細かな指導を行う。 ・進路閲覧室の利用を増やし、自ら調べ、考える姿勢を育成する。「進路の手引き」、「翔雲」などを通じ、的確な進路情報を提供する。
	○読書指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の多面的な利用の促進 ・豊かな読書体験を持つ生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上と進路保証に対応した図書館運営に努める。 ・朝の読書や校内読書会を通して、良書に触れる機会を増やす。 ・年間貸出冊数の目標2,300冊(生徒1人4.5冊) 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書は、学年ごと、月ごとに読む本を提示して、豊かな読書体験ができるよう計画する。特に、「新書」を読む機会を多く設ける。また、図書館だけでなく、集會等でも紹介し、図書館利用を呼び掛ける。 ・「読書」だけでなく、「自学自習」の場として図書館利用をアピールする。大学入試過去問題集や小論文対策の本を揃えるなど、受験勉強の環境作りを努める。 ・「ビブリオバトル」による校内読書会など本校独自の取り組みを継続し、生徒の読書レベルの向上に努める。
	○伊高はちがめプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土(ふるさと)の自然と文化、歴史の理解 ・進路啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊万里学」で地域文化の体験活動をする。(1・2年生) ・「キャリア教育」の視点に立った学問研究や職業研究をとおして、進路意識を高める。 ・校外での生徒の体験活動への参加を積極的に奨励し、生徒の参加を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊万里学」の研修内容を充実させる。 ・職業セミナーや大学の出前講座や様々な講演会を実施し、系統的組織的な進路啓発を行う。 ・校外活動への積極的な参加を呼びかけ、進路意識を高める。また、進路啓発のために校外活動体験発表会を実施する。(日本の次世代リーダー養成塾、聞き書き甲子園、女子中高生夏の学校、県青少年派遣プログラム等) ・「佐賀語り」を活用し、佐賀を誇りに思う生徒を育成する。

③ 自己有用感の育成				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・思いやりの心の育成 ・清掃活動	・自己有用感を育み、自他ともに認め合うことのできる生徒を育成する。 ・健康で安全な学校生活が送れるよう、環境整備と安全に努める。 ・清掃指導の徹底を図り、学習環境を整える。	・各集会や日々のホームルームにおいて、自己有用感を育成するような講話を行う。 ・「気になる生徒」を早期発見し、適切に対応する。 ・毎月安全点検を実施し、校内外の危険箇所を速やかに対応する。 ・落ち着いた学習環境を整えるため、清掃活動を全職員・全生徒で実施する。 ・個人で出したゴミの持ち帰りについて徹底を図る。
	●いじめの問題への対応	いじめのない学校づくり	・深い生徒理解に立ち、生徒がいきいきした学校生活を送れるように留意する。 ・いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・万がいじめが起こった場合、その解消に全力を挙げて取り組む。	・全人格的な接し方を心がけ、生徒との深い信頼関係を築くようにする。 ・生徒の実態をきめ細かく把握するように努める。 ・学期に1回、いじめに関するアンケートを実施する。 ・スクールカウンセラーや養護教諭と連携して、いじめの把握、迅速な対応を図る。
	●健康・体づくり	・望ましい生活習慣の形成 (自主的な健康管理)	・毎日の朝食摂取を目指す。 ・定期健康診断の結果に基づく、早期治療への啓蒙を図る。 ・ICTを活用した保健指導の充実を図る。	・保健だよりを通して、朝食の必要性または食事の重要性について啓蒙していく。 ・健康診断の結果について、本人・保護者に周知徹底し、早期治療を促す。 ・健康診断結果や保健室利用状況を活用し、自己の健康に関心を持たせ、生徒自身が健康課題を解決するために必要な知識や能力を育成する。 ・朝や帰りのホームルームで、健康づくりのための啓蒙を生徒保健委員を通して発信する。
	○生徒指導	・基本的生活習慣の確立 ・規範意識の育成	(第1学年) 学校生活への早期適応を目指し、体調面や精神面での管理やサポートを充実させる。 (第2学年) 「落ち着いた生活のある、規範意識を備えた生徒の育成」を目指す。 (第3学年) リーダーの学年として、伊高をけん引する。	(第1学年) ・本校で学ぶこと、生活することに対する誇りと自信をつけさせる。 ・快適な集団生活のため、校則の順守、教室整備などの環境を整えさせる。 ・挨拶を徹底する。 (第2学年) ・基本的生活習慣を確立させる。 ・校則、社会のルールを守らせる。 ・人を大切にする。 ・時間を意識して行動する。 (第3学年) ・学校生活のあらゆる場面で、自分たちの後ろ姿であるべき姿を示させる。 ・事前の連絡と相談を確実に行った上で、自信をもって物事にあたらせる。
	○生徒会活動	・各種委員会の活性化 ・新しい時代の伊高祭の創造 ・部活動の活性化	・主体的な委員会活動が年間を通じて継続できるよう目標及び活動計画を明確化し、システム化を図る。 ・体育の部のリーダー活動及び競技種目の見直しを継続する。 ・文化の部の文化的な意識の向上及び細部への配慮を行う。 ・課外活動の時間を確保し、文武両道を達成できる環境づくりに努める。 ・各部活動で下校時刻の厳守、学習への切り替えを促す。	・生徒のリーダー性を養成するために、教育活動全体を通して生徒の主体性と自主性を向上させる取組を立案・実践していく。 ・部活動の活動時間については、学校全体や各学年での行事の立案段階で確保できるように努めていく。 ・文武両道を実現するために、生徒がより意欲的・主体的に部活動へ取り組めるよう、教職員が指導力向上に研鑽を積んでいく。 ・下校時刻については、全職員の共通実践を徹底することで、時間厳守の定着化を図っていく。
④ 地元との連携の強化				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○魅力と活力ある高校づくり	・伊万里市や関係機関との連携 ・地元の小中学校との連携	・伊万里市や関係機関あるいは地元の小中学校の担当者と定期的に会合を持ち、連携して校内外の活動を実践していく。	・伊万里市や関係諸機関と協議し、1年生の校外学習活動を実施する。 ・地元の小中学校と協議し、本校や歴史的建造物を使用し、座談会や学習会等を開催する。 ・職業セミナーで地元の企業などで活躍する卒業生に話をしてもらう。 ・伊万里学研究でカブトガニについて、伊万里のやきものについて講演してもらう。
④ 本年度の重点目標に含まれない評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針の周知	・学校教育目標の周知 ・キャッチフレーズの周知 ・本年度の重点目標の周知	・学校評価アンケートのそれぞれの項目で周知率を80%以上にする。	・各教室やコモンホール、昇降口、事務室前などにキャッチフレーズを掲示し、誰もがいつでも目に触れるようにする。 ・学校から発信する情報(ホームページ、はちがめ便り等)を通じて紹介する。 ・毎日のホームルームや集会の際に話題に取り入れて生徒に対し話をする。 ・保護者に対して、後援会総会や学年保護者会等の機会に紹介する。
	○開かれた学校づくり	・魅力あるホームページの構築 ・広報紙の定期的発行・配布	・ホームページ利用可能な保護者の70%、近隣中学生の80%以上の利用を目標とする。 ・後援会総会の出席率を50%以上にする。	・ホームページの最新情報を充実させ、最新の情報を提供する。 ・広報誌「はちがめ便り」を月1回のペースで発行し、地域や中学校への情報発信を拡充する。 ・後援会総会の内容を充実させ、複数回案内文書を出したり、生徒や支部の役員を通じて参加の呼びかけを活発にする。
	○教職員の資質向上	・各種研修会の実施 ・分掌会議、教科会議の充実	・校内で実施する研修会や講演等への職員の参加率を90%以上にする。 ・勤務時間内に設定している毎週の分掌会議、学年会議、教科会議の時間を有効に活用する。	・生徒を指導する上で必要な各種研修や指導力の向上につながる研修を各分掌で企画し適宜実施する。また、生徒対象の集会や講演会にも職員も参加し研鑽の場とする。 ・各会議で個々の意見を反映させ、共通理解のもと組織的に取り組む体制をつくる。 ・各教科で研究授業や公開授業を実施し、教科の学力向上と指導力向上について研究する。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の推進 ・日常業務におけるICT機器の効果的な活用	・職員間の情報共有を積極的に進め、業務への効率的な取組を推進する。 ・連絡や調査をペーパーレスで行い、業務の効率化を図る。	・定時退勤推進日を週1日設け、職員に周知徹底し、時間外勤務を少しでも減らす努力をする。 ・日々の連絡や各種調査等をPCを用いて行い、集計等の効率化や時間の短縮など業務軽減につながるよう工夫する。また、その方法について、学年や分掌間で情報交換を行い、活用する機会を広げていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目